

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本皮膚科学会雑誌（2006.09）116巻10号:1495ページ.

旭川医大皮膚科における病理組織診断の歴史と意義

山本明美, 菅野恭子, 佐藤恵美, 飯塚一

旭川医大皮膚科における病理組織診断の歴史と意義

旭川医大皮膚科

山本明美、菅野恭子、佐藤恵美、飯塚 一

当科では旭川医大と大部分の関連施設の皮膚病理組織診断を教室内でおこなっている。

開設当初に比べて郡部の検体数の増加が著しく、近年では年間 2000 件余りのうち

郡部が約 80%と、地域医療に貢献している。また具体例を提示して皮膚科医が病理

診断をすることの意義を確認するため、47 歳女性の顔面に生じた DLE を報告する。病

理医により悪性リンパ腫と診断とされ、電子線照射をうけ悪化した。我々の病理診断

は DLE であった。